

平成 26 年度 静岡大成中学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み(計画)	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
1. 基本的生活習慣と模範意識の確立を図り、社会人として通用する生徒を育てる。	社会や家庭、学校のルールをしっかりと守らせる。	生徒にルールやマナーの主旨や必要性を理解させ、守ろうとする意識を育てる。また、教師自らも社会や職場のルールを守る。	B	「学校は皆が安心して生活を送ることのできる場所である」ことを指導の柱とし、そのためにどうあるべきかについて、日常的にはもちろんのこと、集会や道徳の時間を利用して考えさせた。しかし、その安心を損ねる事象が起きてしまい、生徒及び保護者に心配をかけてしまったことは大いに反省すべき点である。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で会った生徒が、しっかりと挨拶をしてくれる。服装もきちんとした身なりが多い。基本的なルールについて、学校の指導が徹底されていると感じる。 ・挨拶や服装、整理整頓等は、前期にしっかりと指導した結果かもしれないが、自己評価率を見ると後期に下がっている、後期も気を引き締めて頑張ってもらいたい。特に中学生については、元気すぎてかつ活発すぎる年頃であるので指導は大変と思うが、引き続き努力をお願いする。 ・中学1年生は小学校時代に強く指導されないからロッカーや机の整理・整頓が粗雑である。これが中学2、3年生の教室はきれいに整頓されている。指導の成果が伺える。 ・中学校舎は、入り口を始めお花で飾られている。花は人の心を和ませる。是非続けてもらいたい。
	あいさつをしっかりとできるようにする。	教師自らが分け隔てなく挨拶をし、正しい言葉遣いや立ち振る舞いに心掛け、生徒の模範となる。	A	部活動や日常生活の中であいさつの徹底を図り、礼法の授業においても日本人としての礼儀について学ぶことができた。説明会等でのアンケートの中でも高い評価をいただいている。引き続き褒めていながら、生徒の自信にしていきたい。	A	
	服装や頭髪を正しく整えさせる。	中学生としての正しい服装容儀についての認識を持たせ、実践させる。	A	学年が上がるごとに凛々さが身についてくる雰囲気が出ており、下級生は上級生を手本としながら、身だしなみに気を使うことができている。次年度もこの雰囲気を維持していきたい。	A	
	身の回りの整理・整頓、校内美化に自主的に取り組ませる。	生活環境や学習環境を整えることの大切さを理解させ、行動が習慣化されるまで指導する。教師自らも身の回りや職場の環境整備に気を配る。	B	上級生は概ね実行できているが、1年生の中に数名ルーズな生徒がいる。小学校時代にあまり指導されなかったからか、この習慣を直すには時間がかかるが、根気よく指導していきたい。	B	
	時間厳守の習慣化に努める。	生徒が時間を守り、時間をコントロールして行動することが出来るよう根気強く指導する。もちろん教師自らも時間厳守を徹底する。	B	集団行動においては常に5分前行動の励行を呼びかけている。集合時間については、生徒は強い意識を持っているが、今後は家庭での時間の使い方について指導が必要だと感じている。	B	
2. 授業を大切に、授業力の向上を図り、確かな基礎学力を持つ生徒を育てる。	学ぶ楽しさが実感できる授業を心がけ、チャイムと同時に開始する。	各教科独自の効果的な学習方法を教授し理解させる。学校生活は授業が最優先だという意識を持ち、チャイムと同時に授業開始を徹底する。	B	教科担当とクラス担任が連携し、常に学習内容の理解度チェックができている。また、チャイムと同時に授業開始も実践できている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムと同時の授業開始はなかなか難しい学校もある中でよく指導されていると思う。頑張ってください。 ・授業公開や教員同士の授業参観、研究授業、教員研修(学外)に積極的に取り組まれている。教員の資質向上や教授方法の工夫にも役立つものであり、是非、継続してもらいたい。 ・授業公開にはプレッシャーもあり、普段の授業を展開できない先生もおられる。教科内等で検討していくことも必要と思われる。 ・自己評価と授業評価アンケートを実質的にリンクさせ、教員指導に当たっていることはとても評価できる。授業評価アンケートは、人気ランキングに陥るとか主観的すぎるといった非難もあるが、やはり、全教員を比較すると相当程度客観的な状況が浮かび上がる。そういう面では今後も十分役立てていってもらいたい。
	課題・ノートの点検・確認テスト等、学習内容及び学習方法の定着を図る。	宿題の未提出や学習内容の未理解部分は、放課後の学習で徹底させる。毎日1Pノートに取り組ませることで家庭での学習習慣を定着させる。	B	教科ごと異なる点はあるが、通常においてはノート点検や確認テストを実施。提出物や学習の未理解部分は教科担任だけでなく、クラス担任も責任を持って徹底させるよう取り組んでいる。	B	
	教材研究や授業公開に積極的に取り組み、「授業力」の向上を図る。	保護者への公開授業だけでなく教員同士でも授業を積極的に参観し意見を聞く。授業内容の更なる充実のために指摘された部分を改善していく。	B	授業公開週間には積極的に保護者をお迎えし意見を仰いだ。教員間の授業見学も含め、そこから得られる感想を助言とし、「授業力」向上に努めている。	B	
	生徒による授業評価を真摯に受け止め、授業の改善に努める。	生徒の評価を真摯に受け止め、「わかる授業の確立」のために努力する。	A	特に2.3年生については、能力別クラス編成のため、授業態度にもクラスで多少差がある。各クラスの実情を考慮しつつも、決して妥協することなく「わかる授業・伸ばす授業」を実践した。	A	
教務内規の徹底と個々に応じた指導を実践する。	生徒一人一人の学習・出席状況をクラス担任と教科担任が共有し、教務内規に基づいた指導を実践する。	B	若い教員が多く、横のつながりの中で、お互いに意見を交換しながらクラス運営をする雰囲気が出来ている。縦のつながりについても、ベテラン教員とより一層連携しているところである。	B		

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的取り組み(計画)	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
3. 進路意識の高揚と進路目標の実現のためのきめ細かな指導を実践する。	第1学年は自己理解とともに将来を見通した進路意識を高める。 第2学年は目標達成のための学力を充実させると共に職業観を養う。 第3学年は目標達成のために能力を最大限発揮させ進路の実現を図る。	進路指導とは、生徒自らの生き方について考えさせ助言を与えていくことであることを念頭に置き指導にあたる。そして、激しく変化する社会において自己を生かすためには、生き方の幅を広げなければならないことを教える。学年を追うごとに学力も充実し、個人面接や三者面談を通して、保護者の理解・協力の上で最終進路決定に導く。高校進学が最終目的でないことを意識させながら、生徒一人ひとりの進路に責任を持ち、生徒の可能性を伸ばさせるために最後まで生徒と向き合い指導する。	A	生き方の幅を広げる手段として学習が大切であることの理解を促した。また、高校進学後の進路を考えさせるために社会性や職業観についても指導した。各学期のPTAや三者面談はもちろんのこと、日常より保護者の相談に耳を傾け、生徒一人ひとりの進路を保護者とともに考えていく姿勢が見られた。 また、長期休暇中や高校入試前には卒業生を招き、先輩方の高校生活の様子や入試に向けたアドバイス話を聞かせ、在校生を奮い立たせるきっかけとすることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校は公立高校の受験も幅広く推進されており、個々の生徒の個性を尊重しながら、高校進学後を見据えた特色ある指導をされており、今後もこの方針を継続していただきたい。 進路指導には、やはり、身近な先輩から話を聞くのが最も効果的ではないかと思う。このまま続けてもらいたい。 スリーライト（スターライト、サンライト、トワイライト）は本校の特色であり、特にスターライトは夜の8時半ごろまで勉強している。生徒も大変であり、先生方もご苦労ですが、是非、頑張ってもらいたい。 外部模試の活用方法は難しいところであるが、生徒の「誤答ノート」の活用を含め、さらなる検討をお願いした。
	進路に関する情報や知識の習得に気を配り、適切な進路指導を行う。	校内テストだけでなく、外部模試を活用し、テスト結果を基に生徒一人ひとりの学習成果を点検し、その後の取り組み方を指導していく。また、生徒だけでなく教師も入試説明会等に参加し、進んで情報収集を行う。	B	外部模試のテスト結果を基に一人一人の学習を点検し取り組み方を改善させている。また、理解できていない部分をそのままにしないために誤答ノートの作成を徹底した。志望校決定の際には、教員も様々な資料・データを集め、保護者と共有した。	B	
	進路の実現に向けて最大限のバックアップができる体制を作る。	普通の授業に加え、スリーライトクラスをより一層充実させ、進路実現のための実力をつけさせる。競争力や忍耐力を育てる中で、生徒同士で励まし合う心も養う。各種検定の受験者数及び合格者数を増やす。	A	定期試験や外部模試の結果を考慮し、スリーライトクラスの更なる充実を心がけた。また、高校入試前には中学部の教員を総動員し、面接指導にも当たった。今後は、言われたことだけやるのではなく、自学自習できる生徒を育てていきたい。	A	
4. 部活動・生徒会活動・学校行事の充実と積極的な参加を促す。	部活動の活性化に努め、学生生活に潤いと活力を与える。	部活動を通して、体力・精神力を向上させ、挨拶や言葉遣い、礼儀作法を身に付けさせる指導を行う。	B	文武両道が上手に生かされ、部活で生き生きとしている生徒は学習にも自信が生まれている。生徒の志向が多様化してきている中、文化部の創部についても考える必要があると思われる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化部の創部については、顧問や場所の確保等難しい側面があるが、生徒の獲得や生徒の学校生活にも大きな影響を与えることでもあり、引き続き検討されたい。
	豊かな学校生活を目指し、クラスや学年の団結力を高め、一体感を図る。	学校行事を帰属意識につなげるだけでなく、生徒会の活躍の場と捉え、上級生・下級生を問わず、相手への敬意を育てる。	A	中学校独自の行事を多く計画しているので生徒たちの楽しみとなっている。また、ほとんどが生徒会主催のため、上級生への敬意を残しつつ、クラスや学年の枠を越え楽しむことが出来た。	A	
5. 信頼される学校づくりをめざし、教育の特色や魅力を強化し、積極的に外部に発信する。	本校生徒の活躍する姿を外部に発信し、常に新鮮な情報を提供する。	ホームページを定期的に更新するための情報作りのために、それぞれの立場で新鮮な話題を積極的に提供する。	B	「今週の大成」コーナーを中心に、今本校で何か行われているのかを常に発信することが出来た。学校説明会等のアンケートでもホームページの注目度が向上していることが確認できた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価率が低いのは、広報の担当でないと自ら積極的に情報は発信しないことに由来すると思われる。しかし、私学の先生は生徒の獲得面にも参加することが重要なので、全員参加の広報の場を作っていくことが必要である。 積極的なPTA活動への参加や、地域との交流は、先生方の日々の努力の賜物であり喜ばしい。
	行事や部活動を利用し、地域交流・学校交流を推進する。	PTA行事や同窓会等に積極的に参加し、学校の最新情報や生徒の活躍する姿を紹介する。	A	各種PTA活動における中学部教員の参加率は他学年と比べて群を抜いている。また、近隣のお米やお菓子の購入など、近隣のお店を積極的に利用することで地域交流を図ることが出来た。	A	
6. 安全・健康・環境・道徳、それぞれの教育を通して「命の大切さ」を育てる。	人権・道徳・安心安全教室を推進する。	在り方・生き方教育や自他の命を大切に作る心、物を大切に作る心をあらゆる場面を通して養う。	B	道徳や集会の時間を利用し、人権やモラルについて話をしてきたが、それを軽んじる事象が数件起きてしまった。次年度は、一方通行の指導を改善し、生徒自身に考えさせていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権や道徳といった分野は、家庭との連携も重要である。すべての家庭と連携することは難しいが、気になる生徒の家庭には十分気を遣い、家庭とよく協力していつてもらいたい。 スマホの使い方やルールについては、学校でも検討していただきたいと思う。
	心身の健康の保持増進のための教育を推進する。	朝食指導や心の健康指導に積極的に取り組み、必要に応じて教育相談室の利用を促す。	B	本校でも「早寝・早起き・朝ごはん」をキャッチフレーズとしてきたが、スマホや家庭の事情等の理由で早寝の部分が疎かになってしまった。S.Cについては今年度6名の生徒がお世話になった。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった